筆記課題

筆記課題

「木工手工具の取扱い」

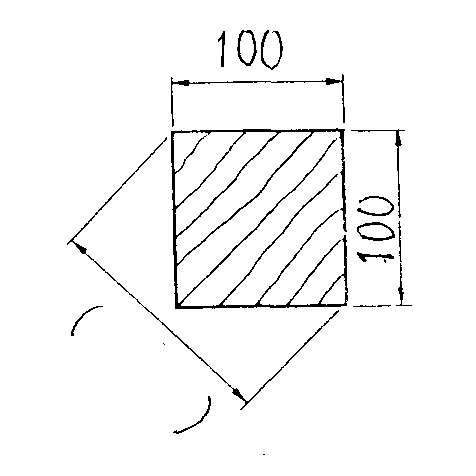
|  |
| --- |
| 注意事項  １：制限時間　40分  ２：注意事項  （１）　指導員の指示があるまで問題は見ないでください。  （２）　解答用紙に入所期、番号、氏名を記入してください。  （３）　机の上には筆記用具以外のものは置かないでください。  （４）　携帯電話の電源は切るか、マナーモードにしてください。  （５）　試験中、質問がある場合は挙手してください。ただし、問題の内容に関する事項については答えることができません。 |

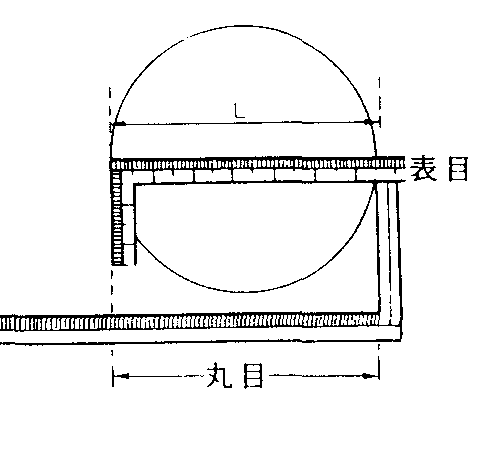
以下の各問いについて、文章が正しいものには○、誤っているものには×を解答欄に記入しなさい。

１） による墨付け作業は、定規をしっかりと固定し、白書の刃裏を定規面に密着させ、最初は軽く、2回目は強く引いて行う。

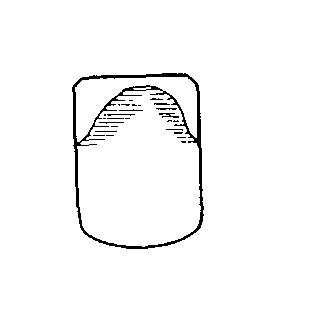
２） け引きによる墨付け作業は、一般に、け引きを手前内側の方向に引いて行う。

３） 図のように、1辺が100mmの四角形に対し、太線の部分をさしがねの裏目を使って計測すると、141mmの値を示す。



４） 図のように、さしがねの丸目を使って計測すると、円周を測ることができる。

５） 裏押しをする際は、中砥石を使用する。

６） 研ぎをする際、砥石をしっかりと固定する。

７） かんな刃が右図のような状態になったものを裏切れという。

８） かんな刃が裏切れを起こしたら裏押しをする。

９） かんな刃を研ぐ際、かんな刃を押すとき力をいれ、引くときは力を抜く。

１０） 刃を研ぐ際、砥石は事前に水につけ、水分を含ませておくとよい。

１１） 砥石はできるだけ幅をいっぱいに使う。

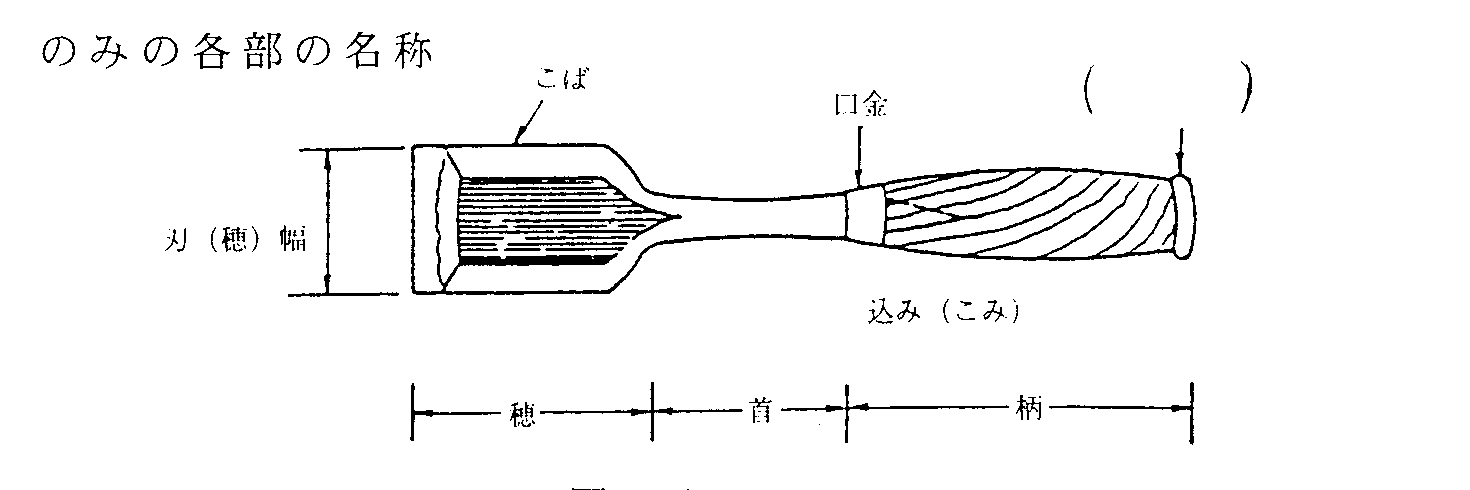
１２） かんなを裏押しする際は、金剛砂を使用する。

１３） かんな刃を研ぐ際は、かんな刃にもよく水をかけておくとよい。

１４） 二枚刃かんなにおける裏金は、かんな刃の刃裏先よりわずかに引っ込み加減になるように合わせる。

１５） の種類によって刃先角度をかえるが、向こうまち＞追入れ＞薄の順に刃先角度を大きくとる。

１６） の各部の名称において、空欄の（　　）部分は 冠（かつら）である。



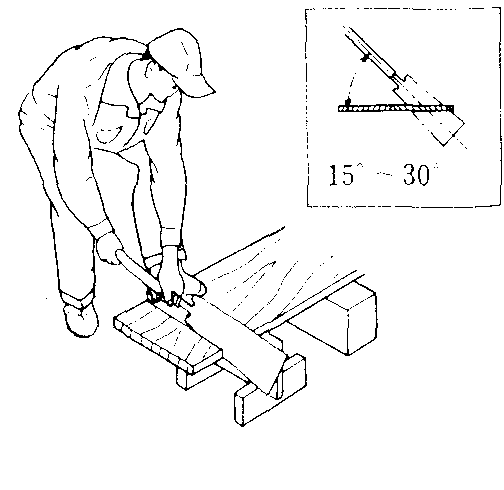
１７） 通し穴を掘る際は、主に、向こうまちを使用する。

１８） 通し穴を掘る際は、垂直になるように、片面から掘り進める。

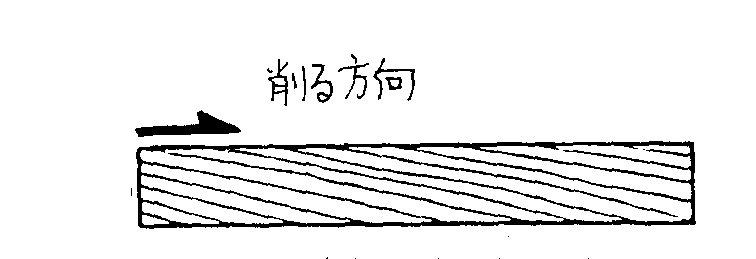
１９） のこぎりは、柄尻と柄頭をにぎるが、特に柄頭は強くにぎる。

２０） のこ引きをする際、のこぎりを引くときは、のこ身いっぱいに適度に力をいれて引き、は、力を抜いて戻す。

２１） 図のように、板材を両刃のこぎりで切断する際は、縦引きをつかう。



２２） かんな削りを行う際、図のような向きに削ることを順目（ならいめ）削りという。



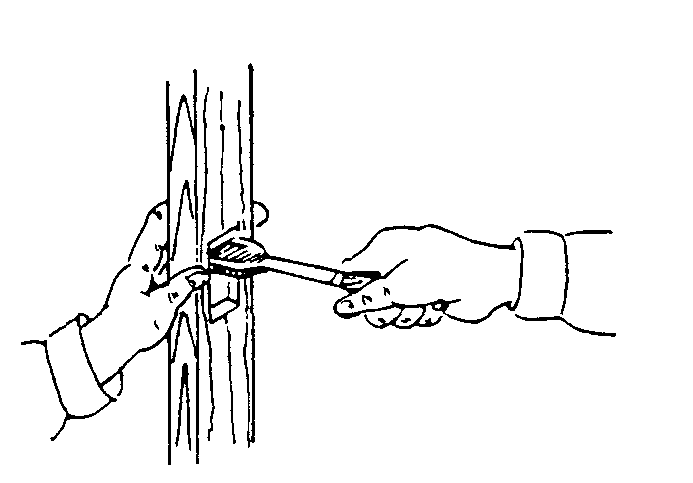
削る方向

２３） こう配（勾配）は水平に10移動したときに、垂直にいくつ上がる（下がる）かで表す。

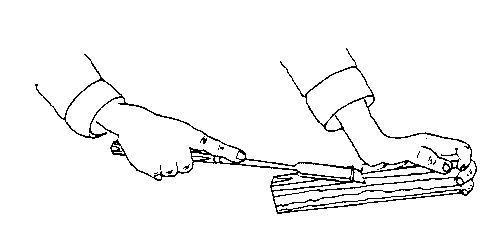
２４） 板材を打ち付ける場合の釘の長さは、板厚の2.5～3倍を標準とし、打ち付ける箇所が木口面や軟材の場合は、4～5倍とするとよい。

２５） 加工墨とは、木取りした部材の上下や左右などを取り間違え加工しないように、使い勝手の印をつけることである。

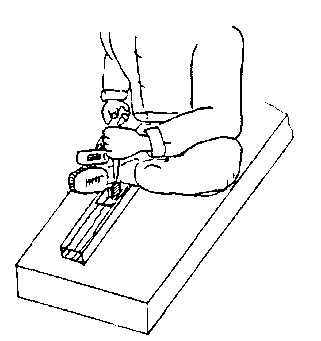
２６） 図のような、の使用方法は適切である。



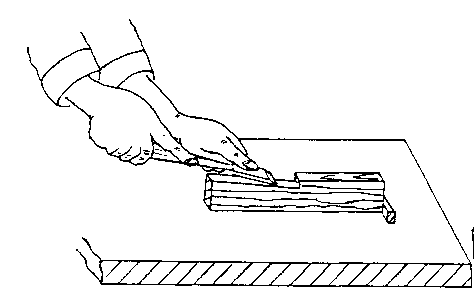
２７） 図のような、の使用方法は適切である。



２８） 図のような、の使用方法は適切である。



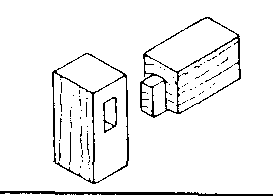
２９） 図のような、の使用方法は適切である。



３０） 板材等の組継ぎは、2枚組、4枚組、6枚組と数が多いほど丈夫で外観もよくなり、すべて偶数枚とする。

３１） の中高の面で、材面を軽くたたいてへこませることを木殺しという。

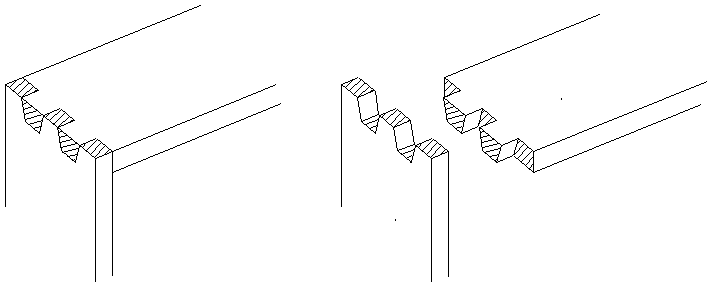
３２） 下図は、三方胴付き平ほぞ接ぎである。



３３） ありとは、はとの尾のように、先端が広がった形をいう。

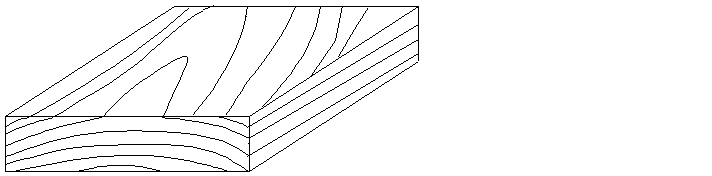
３４） ありに（勾配）をつける道具の中のひとつに自由定規がある。

３５） あり組接ぎ手は、図のような形状である。



３６） 縦引きは、木材を繊維方向に切るものである。

３７） 図太線で囲まれた面を木裏という。

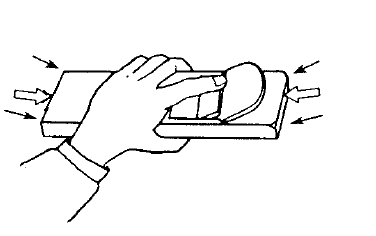


３８） 板材は、乾燥すると図のように変形をおこす。



木口面

３９） かんな刃を抜くときは、②の部分をたたき、取り出す。



①

②

４０） ①の部分を台頭とよぶ。

解答用紙

筆記課題「木工手工具の取扱い」

1問2.5点

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 入所年月 | 番号 | 氏名 | 合計点 | 評価判定 |
| 平成　　年　　月入所 |  |  | ／100 |  |

評価判定基準　Ａ：80点以上 「到達水準を十分に上回った」

Ｂ：60点以上80点未満 「到達水準に達した」

Ｃ：60点未満 「到達水準に達しなかった」

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|  |  |  |  |  |
| 6 | 7 | 8 | 9 | 10 |
|  |  |  |  |  |
| 11 | 12 | 13 | 14 | 15 |
|  |  |  |  |  |
| 16 | 17 | 18 | 19 | 20 |
|  |  |  |  |  |
| 21 | 22 | 23 | 24 | 25 |
|  |  |  |  |  |
| 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
|  |  |  |  |  |
| 31 | 32 | 33 | 34 | 35 |
|  |  |  |  |  |
| 36 | 37 | 38 | 39 | 40 |
|  |  |  |  |  |